

表 3540 2015年中の出口部感染発症率(回/1患者・年) 治療方法(新分類)別(腹膜透析単独患者)

治療方法 (新分類)	0	1.0～	2.0～	3.0～	4.0～	5.0～	合計	不明 記載なし	総計	平均	標準偏差
腹膜透析 (CAPD)	1,952	295	102	34	21	29	2,433	1,645	4,078	0.37	1.02
(%)	(80.2)	(12.1)	(4.2)	(1.4)	(0.9)	(1.2)	(100.0)				
腹膜透析 (APD)	1,122	156	54	33	17	23	1,405	888	2,293	0.45	1.29
(%)	(79.9)	(11.1)	(3.8)	(2.3)	(1.2)	(1.6)	(100.0)				
腹膜透析 (CCPD)	372	74	13	9	6	7	481	252	733	0.43	1.13
(%)	(77.3)	(15.4)	(2.7)	(1.9)	(1.2)	(1.5)	(100.0)				
合計	3,446	525	169	76	44	59	4,319	2,785	7,104	0.40	1.13
(%)	(79.8)	(12.2)	(3.9)	(1.8)	(1.0)	(1.4)	(100.0)				
記載なし (%)											
総計	3,446	525	169	76	44	59	4,319	2,785	7,104	0.40	1.13
(%)	(79.8)	(12.2)	(3.9)	(1.8)	(1.0)	(1.4)	(100.0)				

数値下のかっこ内は行方向の合計に対する%です。

個々の患者の出口部感染発症率(回/1患者・年)は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。

*腹膜透析(CCPD)は、APDと手動のバック交換の両方を行うもの

(C)Japanese Society for Dialysis Therapy

2015年調査